

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	県立播磨特別支援学校 職・氏名 教諭 田中 好國	研究チーム名 (播磨ネットワーク活用)
-----------------	-----------------------------	--------------------------

研究テーマ分類番号 (9)

(1) 研究テーマ
知肢併置の高等部単独の特別支援学校における交流及び共同学習のあり方に関する研究
(2) 研究経過及び具体的な取組
<p>① 肢知併置の学校情報を調査</p> <p>7月～8月 情報通信ネットワークを活用して調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査場所：高速通信環境がある本校の「情報準備室（情報管理室）」 ・調査方法：全国の特別支援学校をインターネットによる Web 調査を行った。 ・調査成果：全国の特別支援学校で、複数の障害種を併置している学校は約 140 校、その殆どが肢知併置である。 <p>② 肢知併置の学校の高等部における教育課程を調査</p> <p>8月～11月 ①で検索した学校における教育課程情報を抽出して特色を調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査方法：複数の障害種ごとの教育課程を比較検討 ・調査成果：特に作業学習や総合的な学習の時間の授業で、交流及び共同学習を行っている学校が認められた。 <p>③ 高等部における進路上の特色及びキャリア教育に関する情報の収集と整理</p> <p>9月～12月 進路上の特色及びキャリア教育に関する情報をデータベース化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査方法：Web 調査した特徴的な全国 56 校の情報をデータベースにまとめる。 ・調査成果：特に高等特別支援学校において、進路対策及びキャリア教育の実践が顕著であることが解った。 <p>④ 先進校視察</p> <p>10月27日 視覚、聴覚、肢体、知的障害対応の複数障害種をもつ学校を視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問場所：神奈川県立相模原中央支援学校 ・訪問成果：肢体不自由と知的障害の生徒を合わせて、作業学習で製作・販売等に生徒の分担を決め、生徒の障害実態に応じた交流及び共同学習の工夫が見られた。 <p>⑤ 試行的交流及び共同学習の実践の観察</p> <p>本校と県立龍野北高校との交流及び共同学習の実践</p> <p>7月12日（第1回）、11月1日（第2回）、2月22日（第3回予定）実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施場所：県立龍野北高校総合福祉学科棟 ・実施内容：本校就業技術科（知的障害教育部門）生徒と龍野北高総合福祉科生徒による福祉に関する作業関係の交流及び共同学習 <p>⑥ 今後の予定</p> <p>1月～2月 調査した各学校における交流及び共同学習の内容を抽出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査方法と検討：共同学習の内容と成果を検討し、本校の交流及び共同学習と比較検討する。